

# PROJECT 報告書

プロジェクトNo	1		
プロジェクト名	無人島ゴミ拾い&小学校建設ツアー vol. 1		
プロジェクトリーダー	石川・中津・浅野・吉井	報告書作成者	吉井

## 事業要領

### 1、プロジェクトに至る背景

無人島であるカラバサ島開拓へ向け、現場調査を行った。

その際、島にあるゴミの多さが目立った事が印象的で、アホイシティホールにてその原因等を伺った所、島へ遊びに来る方が置き去る事と、近隣の島や街から流れ着く事が主な原因だそう。アホイ町で以前ゴミ拾い企画を行なったが、現状は変わらない。

アホイの町民だけでなく、わざわざ外国から日本人がゴミ拾いツアーに来る事で、町民がゴミ問題の深刻さに気付き、現状が変わる可能性が十分にあるという課題解決方法が案として挙がった。

そこで、我々エミアスは、無人島開拓の第一歩をゴミ拾いからスタートする事にした。

### 2、プロジェクトの目的

- ① 島にゴミが集まる根本的な原因の解決。  
海外から外国人がゴミ拾いツアーへ行く事で、ゴミを放棄する事の深刻さを町の方々に訴え、意識改善・行動改善に繋げる事で、カラバサ島に辿り着くゴミを減らす事。
- ② アホイドリームプロジェクトのスタートを切る事で、アホイ町長・町の方々に対してエミアスの存在を強調し、より良い関係・協力体制を構築する事。
- ③ 日本から参加するお客様に、今後エミアスの一員（会員）になっていただき、費用・運営ともに活動の継続に繋げる事。

### 3、プロジェクトの対象者及びターゲット

アホイ町の方々。非営利活動に興味のある日本人、特に 20 代～30 代。

## 事業概要

### 4、実施日時

2019年3月16日（土）午前8：00 集合 ～ 3月19日（火）午後1：00 解散

### 5、実施場所

フィリピン（イロイロ／アホイ町／カラバサ島／マルブエナ島）

### 6、外部協力者

【日本】

(株)トップワン（斎藤龍様）、ワンワールド出資者（黒川進様・木村亜矢様・岩花徹様・松原秀樹様・矢馳一郎様・石田友克様・野口功祐様・石川哲也様・池田輝男様・田中有美子様）

【フィリピン】

アホイシティホール（Mayor Jett, Mr.Glenn, Ms.JE）、ワンワールド JLC 全社員、ワンワールド HRD 全社員、ワンワールド JLC 学生、プンタブリ小学校教員・学生

## 7、参加人数結果報告

参加員数計画：1日目 18名/2日目 100名/3日目 300名

実行参加員数：1日目 18名/2日目 100名/3日目 300名

参加推進方法及び経過：SNS (Face Book / Instagram)、紹介、グループ会社の社員旅行

## 8、事業決算総額

予算額：375,400.00 ペソ

決算額：345,204.52 ペソ

残高：30,195.48 ペソ

## 9、事業内容報告

- ・ 参加者同士の交流（イロイロ市観光/GarinFarm 観光/会食交流会）
- ・ カラバサ島にてゴミ拾い（国際交流/会食）
- ・ プンタブリ小学校（訪問セレモニー/校舎建設/会食/児童夢発表/児童との交流会）
- ・ アホイ町への表敬訪問  
（シティホール訪問/ジェット町長・町の方々との会食/感想発表会）

## 10、プロジェクトの目的達成の検証

達成点：

プロジェクトの目的である、アホイ町の方々のごみ放置に関する意識変化・アホイ町とのより強固な関係構築が出来た。発起したツアーを計画通り実現させた事と、運営・参加者共に、アホイ町の方々と共有する時間を大切にしている姿勢が受け入れられた事が、目的を達成出来た大きな理由だと検証される。

未達成点：

元々のターゲットであった、20代日本人の参加者が実質はゼロだった。新規集客が年代問わず目標通りに進まなかった事が原因だと検証される。また、参加者へのフォローアップ体制が計画不足だった事は、運営チーム内での事前の連携不足と、事前のスケジュール管理不足が原因だと検証される。

## 11、プロジェクト実施上の問題点

運営上の問題点：役割分担を事前にはっきりと決めておかなかった為、運営者の負担が偏った。  
集客が目標を遥かに下回った。

予算上の問題点：必要経費の予算配分が共有できていなかった為、経費立て替えの負担が偏った。

その他の問題点：プロジェクト実行前までにお客様（=参加者）を含めたチーム形成が出来ていなかった為、お客様継続の為のフォローアップ体制が新しく必要となった事。

## 12、次回への引継ぎ事項

プロジェクト実行前に、進行のスケジュール管理・予算組み・集客・プロジェクト前後の顧客獲得の計画・運営分担を綿密に決めておくと、プロジェクト完了までがスムーズ。

ワンワールド出資者方から多額の寄付があった為予算が潤沢にあったが、寄付が無い中での予算組みには注意が必要。

## 13、プロジェクト担当者所感

プロジェクトについては、目的を達成でき、ご参加者にとって満足度の高いものとなったので大成功だった。

しかし、事前に趣旨を上手く伝えきれていない為か、マーケティング不足か、参加者が予定数を下回った課題点が残る。

また、アホイ町の方への今プロジェクトの主旨説明が不十分だった事も課題点である。

ボランティアツアー前のコミュニティ作りで、事前の情報共有と事後の顧客囲い込みの両課題を解決出来る可能性がある為、次回はコミュニティ作りにも力を注ぎたい。

## 14、本 Project を共同主催した 国際協力団体 m.a.t からの報告

この度は、本 Project をご支援いただき、誠にありがとうございました。

3/18 のプンタブリ小学校での活動に関しまして、ご報告させていただきます。

[3/18 プンタブリ小学校での活動内容]

1. オープニングプログラム (“Thank you” Program) 出席  
フィリピン国歌斉唱、代表者スピーチ、生徒による歌・ダンスの披露 等
2. 二教室建設作業  
ブロック運び・ブロック積み、コンクリートづくり 等  
(二教室建設は、プンタブリ小学校・アホイ町・m.a.t による共同プロジェクト)
3. 約 30 名の生徒による夢発表会 出席
4. 折り紙・日本語教室・サッカー・ダンス等を通じた生徒・先生との交流

[各活動内容に関する報告事項・所感]

1. 生徒が一生懸命に歌・ダンスを披露してくださったり、生徒のお母様が涙を流しながらスピーチをしてくださったりしたことで、参加者にとって印象的な時間であったと考える。
2. 作業内容の事前確認、参加者への説明が不十分であったことが反省点。現地からも多くのボランティアの方々が参加してくださり、二教室建設プロジェクトをアホイ町の方々に印象付け、その後のスムーズな建設に結び付けることができた。
3. 参加者・生徒が互いに質疑応答する時間を取るべきであったかと考えている。生徒は緊張していたようだが、勇気あるスピーチは、参加者にとって印象的なものであったと考える。生徒の夢や、小学校で不足しているものに関して、生徒から聞くことができ、今後のエミマス・m.a.t の活動のヒントになった。
4. 参加者の皆さまが率先して行動してくださり、その場にいた全ての方々ににとって印象的で、相互理解に繋がる時間であったと考える。  
上記全活動を通じ、アホイ町・エミマス・m.a.t が、より強固な信頼関係・協力体制を築くことができたと考える。

国際協力団体 m.a.t 代表 浅野

## 15、関係資料

1		5	
2		6	
3		7	
4		8	